

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・ 平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・ 市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・ 女性と子どもの権利をまもる
 - ・ パレスチナYWCAの活動を支援する
 - (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 10

OCT. 2009

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03・5367・1872 / FAX 03・5367・1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

YWCA 非暴力週間 Week Without Violence

毎年10月第3週の非暴力週間は、女性への暴力をなくすために世界中のYWCAが一斉に実施するキャンペーンです。1995年、DV(ドメスティック・バイオレンス)やレイプ被害者の急増を受けて、アメリカのYWCAが始め、世界に広がりました。「男女間における暴力に関する調査」(内閣府 2008年)によると、日本では女性の33.2%がDV被害を経験しています。

全国のYWCAでは、DV被害者支援・DV予防ワークショップ・移住女性の支援などに取り組んでいます。参加者として、支援者として、YWCAにはあなたがたができることがたくさんあります。

求められた政府のリーダーシップ

女性差別撤廃委員会(CEDAW)による 日本政府報告審議を傍聴して

ニューヨークの国連本部で7月20~23日までCEDAWが開催され、日本政府レポートに関する審議が行われました。

ゆのまえ知子 (お茶の水女子大学非常勤講師・政策とジェンダー、日本YWCA賛助員)

「日本は条約を尊重していない」「日本では条約は宣言にすぎないのですか?」と、国連で日本政府が問いつめられた。7月の女性差別撤廃委員会での一幕である。条約とは女性差別撤廃条約のことで名称は堅苦しいが、その中身は女性の一生にかかわり、女性の生き方(ひいては男性のそれ)に影響を及ぼすものである。

例えば、現民法の女性の再婚待機期間6カ月や、婚姻年齢の男女差(女性16歳・男性18歳)、夫婦同姓の強制、婚外子の相続規定などについて、1996年に法制審議会がこれらについての改正案を出したが、棚ざらし状態が続いている。その理由として法務省は世論の動向を理由にしている。CEDAWは2003年の前回の日本審査の折にも、法改正を勧告していたが、保守系議員の抵抗があり、いっこうに進展がない状態である。

NGOレポートも提出

7月23日、ニューヨークの国連本部で女性差別撤廃委員会(CEDAW)による、第6次日本報告の審議が行われた。子どもの権利条約や人権規約・女性差別撤廃条約など、人権に関する国際条約の加盟国は、国内でのその実施状況について国連に報告義務があり、委員会の審査を受けて不十分な点について勧告を受ける。女性差別撤廃条約の場合、4年に一度提出の義務があるが、審議が遅れがちなため、今回は6年ぶりとなった。

日本からはJNNC(日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク)の加盟の45団体、84人が傍聴し、私もその一人として参加した。政府報告書は、法律ができたことや対策をとっているなど、肯定的なことしか書かないため、現状の問題や課題を示したNGOレポートをJNNCとしてまとめ、それを委員たちに提出していた。

日本女性の社会的地位の低さ

まず、1条の女性差別の定義について、日本には法的に女性差別の定義がないことを委員会は指摘するが、日本政府は憲法の平等原則によって、政治的・社会的・経済的差別を禁止しているからクリアしていると回答している(しかし憲法は、差別はいけないと言っているが、何が差別かという定義はしていない)。これに関連し東京都知事の「ババア発言」をはじめとする公人の女性差別発言を野放しにしている政府の姿勢も批判された。

また、UNDP(国連開発計画)によれば、日本女性の社会的地位(ジェンダー・エンパワメント指数)は54位(07年)であり、その順位は下がり続けている。それは何を示しているかというと、他国が女性の地位向上政策を積極的に実施しているために順位が上がるため、効果的・積極的な対策を取らない日本の順位は下がってしまうのである。

このような状況について、「先進国として驚くべきことだと言われた。政府は2020年までに、あらゆる分野に女性の占める割合を30%にする」という数値目標を掲げていることや、国家公務員・医師・研究者については優先的に取り組むと述べたにとどまった。

「日本は条約を尊重していない」「日本では条約は宣言にすぎないのですか?」と、国連で日本政府が問いつめられた。7月の女性差別撤廃委員会での一幕である。条約とは女性差別撤廃条約のことで名称は堅苦しいが、その中身は女性の一生にかかわり、女性の生き方(ひいては男性のそれ)に影響を及ぼすものである。

「結婚力強化でゴールイン」「草食男子におくる婚活マニュアル」などなど、何をいってもとにかく結婚、結婚できないのは努力が足りないからだと思う記事、広告を目にするようになりまし。シングルの友人にとって、これは相当なプレッシャーのようです。非婚を決めていた友人さえ、男性を紹介するよう言うようになりまし。ある友人は、結婚紹介所から同じ趣味を持つ男性を紹介されました。社会問題に対する考え方も合うのだと楽しそうでした。が、そのうちすっかり元気を失くしてしまいました。彼はあらゆることをコントロールしたいらしく、デートの予定も彼の思うまま、気に入らないことがあると次の日にはそれを責めるメールが何件も届きます。上司に紹介された席で彼と違う意見を言うと、そういう場では男を立てるものだとか怒鳴られました。自分の意見を持って行動できる自立した女性である彼女が、彼の言動にすっかり自信をなくしてしまつたのでした。完璧な男性などいるわけない、「女らしく」してとにかく結婚を、と彼女が思い込み、このような状況に追い込まれたのは、結婚を煽るメディアと私たち、家族、親戚、友人からの結婚をよしとするちよつとした一言の積み重ねでした。世帯を単位とする諸制度、社会の構造、私たちの考え方は男女平等とはとても言えず、妻の3人に1人が夫からの暴力を経験しているとかつてはいるはずなのに。

横浜YWCAでは、パートナーの暴力から逃れようとする女性たちが、失った生活を立て直し、本来持つ力を回復し、人や社会への信頼を取り戻せるようにと活動を始めました。私たち女性が生き難いのは、私たちの努力が足りないからではなく社会の構造に問題があるからだ、今のままの自分でいいんだ、そう女性が感じることで、安心して過ごせる場にしたいと、学び、考え、話し合いながら準備を進めているところです。

今のままの自分でいい場所

倉戸ミカ

- 臨時全国総会
11月21日(土) 9時~
- 臨時中央委員会
11月21日(土) 10時半~
- 第30回全国総会
11月21日(土) 13時半~
23日(月・祝) 12時

(横浜YWCA会員)



世界YWCA主催

アジア・太平洋地域
トレーニング会議
(RTI)

2009年8月2日～7日 於 インドネシア バリ

女性のイニシアチブによる 平和な社会づくり

地域トレーニング会議(RTI)は、世界総会での決議や課題を確実に実行していくために、トレーニングと地域行動計画を策定することを目的に、全世界7カ所で行われている会議で、今回のアジア・太平洋セッションには17カ国から97名の参加者及びYWCAと寄付をしてきている国連団体や財団からの参加者があった。日本からは4名が参加した。

6日間にわたるセッションは、①知識の共有、②スキルの構築、③地域行動計画の構築という骨組みで行われた。知識の共有においては、女性の性的および生殖における権利(SRHR)、HIV、女性への暴力に関する問題を、専門家によるプレゼンテーションと参加YWCAからの取り組みの共有セッションを基に行った。それぞれの問題は単独ではなく相互に関連しており、その関連性に着目し包括的な取り組みを行っていくことの必要性が同意された。日本が憲法9条への取り組みを紹介した際に世界YWCAの総幹事であるニヤラザイ・グンボンズバンダさんから、平和の問題と女性の問題は深く相互に関連しており、憲法9条への取り組みはとても大切なものであるというコメントをもらった。今までの活動に自信を持つと共

に、今後の活動において、より大きな骨組みで問題を考えることが必要だと感じた。また、名古屋Yの具ゆりさんが行った高校生を対象にしたワークショップの紹介は、あらゆる世代へのSRHRを推進する取り組みにおいて各参加者から高い評価を受けた。スキル構築においては、やはり資金調達が大切ということで、ファンドレイジングをメインに行われた。外部団体にYWCAと、YWCAが社会に及ぼす価値を理解してもらった上でいかに資金を調達するのか。効果的なコミュニケーションの骨組みの作り方、限られた時間内で簡潔にかつインパクトのあるコミュニケーションをする方法。YWCAの組織運営、適切な運営と説明責任の基準(SGM A)についてなど、包括的なトレーニングセッションが行われた。今回のRTIも外部からの寄付によって成り立っており、初日にはプレスリリースを行い、最終日には公的な地域行動計画文書を出すなど、外部に対する「プロ」対応には学ぶものが多いであった。

これらのセッションを経て、アジア・太平洋地域のプライオリティとして女性への暴力、SRHR、及びHIVの問題を教育・経済権限の強化をはかりながら現存するプログラムをより深く、より一貫性を持ったものにするのが同意された。東アジア(台湾、韓国、日本等)においても上記プライオリティを推進していくために今後更なる協働が必要だということをお互いに確認した。

今回RTIに参加して、YWCAが世界組織であるということとを改めて実感することができた。世界ともしっかり繋がっていくことで日本Yを活性化できるのではないだろうか。私たちの活動は平和な世界を構築するためのものであり、それと女性の問題は切り離すことはできない。その中で、世界で高い信用を得ている国際団体である利点を活かし、今後の活動につなげていきたい。9条の問題には多くの参加者が大きな関心を寄せていた。日本国内のみならずアジアスケール、世界スケールで9条の問題に取り組む等、多くの可能性と、YWCAのすばらしさを再認識させてもらった。そして、何よりも、すばらしい人々との出会いがあった。皆が同じ目的に向かってそれぞれの分野で活動し、課題を共有することで更なる活動を生み出していく。そういうところがYWCAの強みなのだからと思う。

常任委員 万年禮

地域トレーニング会議(RTI)は、世界総会での決議や課題を確実に実行していくために、トレーニングと地域行動計画を策定することを目的に、全世界7カ所で行われている会議で、今回のアジア・太平洋セッションには17カ国から97名の参加者及びYWCAと寄付をしてきている国連団体や財団からの参加者があった。日本からは4名が参加した。

6日間にわたるセッションは、①知識の共有、②スキルの構築、③地域行動計画の構築という骨組みで行われた。知識の共有においては、女性の性的および生殖における権利(SRHR)、HIV、女性への暴力に関する問題を、専門家によるプレゼンテーションと参加YWCAからの取り組みの共有セッションを基に行った。それぞれの問題は単独ではなく相互に関連しており、その関連性に着目し包括的な取り組みを行っていくことの必要性が同意された。日本が憲法9条への取り組みを紹介した際に世界YWCAの総幹事であるニヤラザイ・グンボンズバンダさんから、平和の問題と女性の問題は深く相互に関連しており、憲法9条への取り組みはとても大切なものであるというコメントをもらった。今までの活動に自信を持つと共

に、今後の活動において、より大きな骨組みで問題を考えることが必要だと感じた。また、名古屋Yの具ゆりさんが行った高校生を対象にしたワークショップの紹介は、あらゆる世代へのSRHRを推進する取り組みにおいて各参加者から高い評価を受けた。スキル構築においては、やはり資金調達が大切ということで、ファンドレイジングをメインに行われた。外部団体にYWCAと、YWCAが社会に及ぼす価値を理解してもらった上でいかに資金を調達するのか。効果的なコミュニケーションの骨組みの作り方、限られた時間内で簡潔にかつインパクトのあるコミュニケーションをする方法。YWCAの組織運営、適切な運営と説明責任の基準(SGM A)についてなど、包括的なトレーニングセッションが行われた。今回のRTIも外部からの寄付によって成り立っており、初日にはプレスリリースを行い、最終日には公的な地域行動計画文書を出すなど、外部に対する「プロ」対応には学ぶものが多いであった。

これらのセッションを経て、アジア・太平洋地域のプライオリティとして女性への暴力、SRHR、及びHIVの問題を教育・経済権限の強化をはかりながら現存するプログラムをより深く、より一貫性を持ったものにするのが同意された。東アジア(台湾、韓国、日本等)においても上記プライオリティを推進していくために今後更なる協働が必要だということをお互いに確認した。

今回RTIに参加して、YWCAが世界組織であるということとを改めて実感することができた。世界ともしっかり繋がっていくことで日本Yを活性化できるのではないだろうか。私たちの活動は平和な世界を構築するためのものであり、それと女性の問題は切り離すことはできない。その中で、世界で高い信用を得ている国際団体である利点を活かし、今後の活動につなげていきたい。9条の問題には多くの参加者が大きな関心を寄せていた。日本国内のみならずアジアスケール、世界スケールで9条の問題に取り組む等、多くの可能性と、YWCAのすばらしさを再認識させてもらった。そして、何よりも、すばらしい人々との出会いがあった。皆が同じ目的に向かってそれぞれの分野で活動し、課題を共有することで更なる活動を生み出していく。そういうところがYWCAの強みなのだからと思う。

常任委員 万年禮



世界YWCA会長(右から4人目)、総幹事(同2人目)と日本からの参加者

第9回アジア・太平洋 国際エイズ会議(ICAAP)

RTIに引き続き、表題の会議が開催されました。

8月9日、オレンジ色に染まるバリの夕暮れに包まれ、第9回アジア・太平洋国際エイズ会議(ICAAP)は、インドネシア大統領の開会宣言をもってスタートした。

「人々をエンパワーし、ネットワークを強化する」をテーマ

から現存するプログラムをより深く、より一貫性を持ったものにするのが同意された。東アジア(台湾、韓国、日本等)においても上記プライオリティを推進していくために今後更なる協働が必要だということをお互いに確認した。

今回の会議は、MSM(男性とセックスをする男性、トランスジェンダー、セックスワーカー、薬物を使用する人々、移住労働者など)の職業や行為からHIV感染のリスクが高いといわれる人々に加え、国連機関、NGO、政府関係者ら65カ国3500人以上が参加し、5日間

にわたる側面からHIVとAIDSへの取り組みが発表された。アジア・太平洋地域におけるHIV感染は前述のハイリスクグループの間で流行傾向だが、

に、MSM(男性とセックスをする男性、トランスジェンダー、セックスワーカー、薬物を使用する人々、移住労働者など)の職業や行為からHIV感染のリスクが高いといわれる人々に加え、国連機関、NGO、政府関係者ら65カ国3500人以上が参加し、5日間

にわたる側面からHIVとAIDSへの取り組みが発表された。アジア・太平洋地域におけるHIV感染は前述のハイリスクグループの間で流行傾向だが、

性の売買をいかに規制するか

福島YWCA学習会

子どもや女性を取り巻く暴力について学びたいとの会員の声を受けて、福島YWCA会友の中里見博さん(福島大学教授)に講師を依頼し、学習会を開催した。「性の売買をいかに規制するか」という重いテーマだったが、法律の立場から問題点を明確に解説して下さった。

1956年に制定された「性交」を禁止する「売春防止法」と、それ以外の一切の性行為(性交類似行為)を合法化する「風俗営業等適性化法(風営法)」(1948年制定、以降改正が続く)の2つの法体系の矛盾について指摘された。売春防止法により、売春および買春はいずれも禁止されたが、風営法により「個室付浴場」(ソープランド)での事実上の売買春が合法化され、また性交類似行為の売買が広く合法化された結果、売春防止法が骨抜きになってしまった。では、なぜ2つの法律が両立しているのか。売春防止法制定の際、売買春の規制目的を、女性の権利保障や両性平等の保護・実現に明確に置くことができなかった。戦前からの「風俗犯」の取り締まりに置いたことの原因がある、とのこと。

そこで、私たちは性の売買一般の包括的禁止に向けて、性交類似行為が、①女性の権利(性的権利)を侵害していること、②強かん、強制わいせつ、痴漢、盗撮、子どもの性的虐待、児童買春、児童ポルノ、人身売買、セクシュアルハラスメント、スクール・ハラスメント、DVなどの性犯罪・性暴力を生み出し、悪化させていること、③男女の不平等を推し進め、悪化させ、「男女共同参画社会」の実現を不可能にしていること、を広く訴えて

参加者からは、「男女共同参画社会を声高に叫ぶ以前の問題にぶち当たったような気がした」「風営法の存在により売春防止法が骨抜きになっていくという指摘にショックを受けた」との感想が寄せられた。課題の大きさを実感し、10月30日に再び中里見先生に「ポルノグラフィティー」に関する学習会をお願いし、私たちにできる具体的な活動を考えていきたい。

福島YWCA 荒木紀子

非核の道を開くのは日本の市民の力

日本こそ「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のリーダーに!



8月14日～17日に「ひろしまを考える旅2009」が開催され、中高生や大学生を中心に75人が参加しました。ここでは、スティーブン・リーパーさん（広島平和文化センター理事長）による基調講演を抜粋して紹介します。

●2010年のNPT再検討会議がキーポイント

人類が核兵器を廃絶するか使用に向かうか、その方向が決まるのが、来年5月ニューヨークで開催される核不拡散条約（NPT）再検討会議です。前回2005年の再検討会議は、ブッシュ政権の、01年の9・11の多発テロ事件で世界は変わった、今我々はテロに対する戦争をしており核兵器廃絶は考えられないとの強い姿勢に、非核保有国が反発し、最終文章も出せず、まったくの失敗に終わりました。しかし幸いなことに、オバマ新大統領が今年4月に、出来るだけ早く核のない世界を作りたいと、プラハで演説をしたことにより、軍縮に向けて雰囲気完全に変わりました。私は02年から08年まで6年間、再検討会議とその準備委員会に参加してきましたが、今年5月の準備委員会の雰囲気はこれまでとまったく違うものでした。各国代表

●「核の傘」を求める日本のリーダー

しかし問題は、この準備委員会の後、核兵器を手放したくない人々からの反撃がおきていることです。激しくオバマ批判がなされ、アメリカの核兵器は必要だという記事が次々と出ています。核によって儲けている人々は懸命に予算を守ろうとしているし、まだまだ核の抑止論を信じている人たちがいます。2010年に大きな軍縮への転換がなければ、中近東は核だらけになります。それを防ぐための唯一の案は「ヒロシマ・ナガサキ議定書」(*)です。そして、日本がこれを取り上げリードすれば全世界はついてきます。去年の11月日本が核兵器

廃絶の決議案を国連総会に提出したときには、177の国が賛成しました。反対は4カ国（アメリカ、インド、北朝鮮、イスラエル）のみです。しかし、もし日本が「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を無視したら全世界も顧みません。今の日本のリーダーたちは意見が分かれています。反対の声は出さず、ある意味では核兵器を廃絶しようと言っている一方で、米国に「核の傘」を求めています。日本のリーダーが「核の傘」を求め続ければ、アメリカの政策は絶対に変えられませんが、だからこそ大切なのは草の根レベルの声です。日本の市民が立ち上がれば、日本のリーダーたちに影響を与えます。日本の市民が核兵器を廃絶しようと言っていることが、今本当に大切です。

定書を読む絵本」はとてもよくわかりやすい。ぜひ、読んでください。それと署名運動です。集会・講演会・ロビー活動やコンサートなどを通して、この問題をみんなに知らせることも大事です。

なぜ原爆を落とされた国が原爆の問題を解決しなければならぬのか、ある意味では僕が今言っていることはアンフェアだと思えます。しかし、一番原爆の痛みを知っているのが広島・長崎の人々であり、日本人々です。そして唯一原爆を落とされた国として、憲法9条を持つ国、非核三原則を持つ国、平和で有名な国である日本が、平和のリーダーになるのは自然であり、責任が重いと思えます。ここに集まった若い人たちが楽しい人生を送れるかどうかを決めるのは来年5月です。それだけの危機感を持って日本全国が立ち上がり行動してほしいと思います。（文責 編集委員会）



お薦めします!
『ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本』
(黒田征太郎著、500円、「YES!」キャンペーン実行委員会)発行



神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上を這う生き物をすべて支配せよ」。神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう」。そのようになった。神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第6の日である。（創世記1章27～31節）

「神は御自分にかたどって人を創造された」。この聖書の言葉は、「私たち一人ひとりにかけがえない尊厳がある」という「人権」の根拠として示される箇所です。「神にかたどって創造された」というのは、人は優れてはならない尊厳をもっているという意味です。これは「イマゴ・デイ」と言います。「神の像」という意味です。一人ひとりが「神の像」なのです。男と女にかたどって、それぞれの性のあり方で、尊厳をもって造られています。

そして、神は造られたすべてのものを御覧になって、「良い」と言われました。これは、「美しい」とも訳される言葉です。自然もその一部である人間も、被造物として神からの祝福を受けて造られました。しかし残念なことに、私たちは社会において、自分の中で、周りからの評価の言葉が大きくなっていくのです。神からの祝福の眼差しから離れてしまっています。主イエスはユダヤの社会において、祝福から遠く離れていると思っていた人々に対して、「あなたがたは幸いだ」と告げられました。それは神の祝福を告げ、「あなたは私が創った、大事なかけがえない人だよ」という呼びかけでした。一人ひとりにとって「福音」、グッドニュースでした。今私たちに、その声が届けられています。

増田琴（日本キリスト教団葉嶋とさわ教会牧師）

2009年8月13日

横浜市長 中田 宏様
横浜市教育委員長 今田忠彦様

日本YWCA
会長 石井摩耶子
総幹事 川端 国世

自由社版歴史教科書採択に抗議し 採択の撤回・採択手続きのやり直しを求めます

横浜市教育委員会が、8月4日、中学校歴史教科書として「新しい歴史教科書をつくる会」編集の自由社版歴史教科書を市内18採択地区中8地区（港南・旭・金沢・港北・緑・青葉・都筑・瀬谷、145校中71校）に採択することを決定したことに対して、日本YWCAは抗議するとともに、採択の撤回・やり直しを求めます。

自由社版歴史教科書は、日本の歴史を神話も記述し、天皇中心に描いており、また、日本の植民地支配や侵略戦争を正当化・美化し、日本が起こした戦争の加害や被害についてほとんど触れていません。こうした教科書で歴史を学ぶことは、子どもたちがアジアを蔑視する歴史観を身につけることになりかねず、アジアの人々との対話を不可能にし、日本の国際的孤立を深め、子どもたちの将来を危うくすることになります。

日本YWCAは、これまで国際プログラムを通して、韓国・中国などアジアのYWCAと交流を深め、歴史の事実を知り、相手の痛みを学び、想像し、共有することが大切であることを繰り返し確認してきました。私たちは、恥ずべき歴史に対しても、歴史の事実を学び、同じ轍を踏まないために、過去の歴史に真摯に向き合い、次の世代に伝えることが、未来に責任を持つことであると考えます。だからこそ、未来を担う子どもたちが歴史を学ぶために使う教科書の記述を歪曲してはならないのです。

国際都市横浜の子どもたちが、世界の人々と平和な世界を築く土台となる歴史を学ぶ機会を閉ざす、歴史を歪曲した自由社版歴史教科書採択に抗議するとともに、採択の撤回・やり直しを求めます。

以上

この夏、各地で中学校教科書の採択が実施されました。今回は「新しい歴史教科書をつくる会」の分裂により、従来の扶桑社版のほか自由社版教科書が出版され検定に合格し、「つくる会」編纂の教科書が2種類になりました。横浜市が、自由社版歴史教科書を採択したのをはじめ、4年前の採択で扶桑社版教科書を採択した、東京都杉並区・東京都立中高一貫校と特別支援学校・栃木県大田原市などが、今回も扶桑社版教科書を継続採択しました。

2013年から新学習指導要領に基づく教科書が使用されるため、2年後の2011年に次の中学校教科書の採択があります。歴史を歪曲し、戦争を賛美する扶桑社版及び自由社版教科書を子どもたちに渡さないために、2011年を見据え、今からこの問題を学習し、草の根の活動を広めましょう。

*ヒロシマ・ナガサキ議定書：
広島市が会長都市を務め、世界134カ国・地域から約3000都市が加盟する「平和市長会議」が、08年4月に発表。2020年までに核廃絶を実現するため、核弾頭の実戦配備の解除や核兵器禁止条約の発効といった具体的な道筋を示しており、2010年に開催される核不拡散条約（NPT）再検討会議での採択を目指している。



2009年 8月17日

イスラエル国
首相 ベンヤミン・ネタニヤフ様
駐日大使 ニッシム・バンシリット様

日本YWCA

東エルサレムのパレスチナ人への
強制退去に強く抗議し、即刻停止を求めます

日本YWCAは、2009年8月2日未明、イスラエルが東エルサレムのシェイフ・ジャラ地区に住む
8家族を強制退去させたことに強く抗議します。自宅を接収された家族は路上生活を強いられ、
家には代わってユダヤ人入植団体が入居しています。国際人道法(※)では、占領を強行している
イスラエルが個人の土地や家屋を破壊することを禁止しています。また、国際法も国際社会も
イスラエルのエルサレムの主権を認めていません。にもかかわらず、イスラエル政府は、東エルサ
レムのパレスチナ人の人権を抑圧し、住み続けることを困難にし、土地を取り上げ、大規模なユ
ダヤ化を図っています。シェイフ・ジャラ地区もその一つです。イスラエルは占領地から撤退し、
パレスチナ人への強制退去や家屋破壊を即刻中止すべきです。(※占領側の安全保障にとって不
可欠である場合に限って合法と認められることになっているが、それにはあてはまらない)

1948年以前、シェイフ・ジャラ地区にはユダヤ人コミュニティがありました。1920年代以降のア
ラブ人との衝突の中で、1948年までに他の土地に移住したといえます。その後、跡地はヨルダン
政府の敵国財産管理局の管理下に置かれ、1956年、ヨルダン政府とUNRWA(国連難民救済事業
機関)の合意によって、パレスチナ難民28家族に住まいが提供され、今日に至っています。とこ
ろが、現在、エルサレム市には、シェイフ・ジャラ地区に住む500人のパレスチナ人を追放し、
200軒のユダヤ人用住宅を建設し、入植地シモン・ハ=ツアデクを建設する都市計画の案が市に
提出され、今後審議予定とも言われています。イスラエルは入植活動を即時停止し、ユダヤ人用
住宅建設も中止すべきです。

パレスチナYWCAは日本YWCAと同様、世界125カ国にネットワークを持ち、国連の経済社会理
事会の諮問NGOでもある世界YWCAの一員です。世界YWCA総会では、何度か「中東での公平
と正義による平和を求める」決議を採択しています。シェイフ・ジャラ地区にあるパレスチナ
YWCAはイスラエルの建国によって、また、イスラエルの占領によってパレスチナ人の尊厳と人
権が侵害されている状況にあって、特に難民キャンプで女性と子どもに対して、パレスチナ人の
アイデンティティを取り戻し、女性の自立のための活動に積極的に取り組んでいます。私たち日
本YWCAは、シェイフ・ジャラ地区にあるパレスチナYWCAの活動に敬意を持って連帯してい
きます。

イスラエルが、パレスチナ人の人権を脅かし続けることに強く抗議するとともに、以下のことを
求めます。

- 1. 東エルサレムのシェイフ・ジャラ地区をはじめ、占領下のパレスチナ人の強制退去と家屋破
壊を即刻停止すること。
2. パレスチナの占領を中止し、この地における非人道的行為を停止し、パレスチナの人々の尊
厳と人権を尊重し、これを守ること。

パレスチナYWCA・世界YWCAより
緊急行動の呼びかけ

—イスラエル軍が、パレスチナYWCAの隣人を
強制退去—

2009年8月2日未明、イスラエル警察と占領軍は、東エルサレム内シェイフ・
ジャラ地区に住む8家族を強制的に立ち退かせました。家を追われた人々は、
東エルサレムにあるパレスチナYWCA事務所の隣の住人です。

パレスチナYWCA総幹事ミラ・リゼックは、この事件の様子を次のように語
りました。「YWCAの前の通りにはすさまじい数の警察とパトカーが押し寄せ
ています。家の向かい側にはイスラエル人、平和活動グループ、外国人、報道
陣、そしてもちろんパレスチナ人が座り込んで抗議行動をしています。この家
はまさにYWCAの隣で、ひとつの壁を挟んで接しているのです。今の私たちの
気持ち、そしてこれからどんな危機が待ち受けているのかと思うこの不安な気
持ちはお分かりいただけるでしょうか。」

こうした状況を受け、世界YWCAは8月7日、世界中の仲間たちとパートナー
団体に対し、東エルサレムのシェイフ・ジャラ地区、その他占領下にある全パ
レスチナにおける強制立退きと家屋破壊の中止への緊急行動を、次の通り呼び
かけました。

今すぐ行動を!

- 訴える:イスラエル政府や大使館に対し、東エルサレムのパレスチナ人の強
制立退きや家屋破壊、そして引き続きイスラエル軍による占領を即刻止める
よう訴える。
●連帯する:国際世論や各国政府、特にジュネーブ条約の調印国に連帯を呼び
かけ、イスラエル政府とパレスチナ自治政府が聖地の公正で持続的な平和を
実現するように支援する。
●呼びかける:マスコミに対し、人道を逸脱したこの事実の報道を呼びかける。
●継続する:中東における紛争の根本的な原因を明確にし、解決する方法と、
中東における人権侵害の解決策を提唱し続ける。
●祈る:イスラエルとパレスチナに正義ある平和を祈る。

*緊急行動呼びかけに応じて、日本YWCAでは左記の通り、8月17日イスラ
エル首相ならびに駐日大使に対して、抗議文を送付しました。

中高
YWCA
夏のカンファレンス
今夏も中高YWCAカンファレンスを
全国3か所(北海道・東北、関東、
関西)で開催。日本YWCAから関東
地区カンファレンスに派遣された、
木村真理子さんの感想を紹介します。

美しい海と自然に囲まれた千
葉県館山市で行われた、関東地
区のカンファレンスに初めて参
加しました。「平和の砦を築く



「赤山地下壕」に入つて見学する生徒。

—南房総の戦争遺跡をたどる—
のテーマの下、7つの学校から
中高生50名・顧問の先生方と、
聖書から平和を創り出す作業を
学び、フィールドワークでは南
房総の戦跡を共に巡りました。
プログラムでは中学1年生から
高校2年生までの生徒が担当
をしっかりと担い、そして真剣に
学んでいる姿に感心し、また休
憩時間には異なる学校の生徒た
ち同士が生きて生きと話してい
る姿を微笑ましく思いました。
フィールドワークを終えた後の
分かち合いの時間に、年長の生
徒が中心となり感想を共有し平
和に対する想いを語りあう中で、
時間が足りないと言った生徒た
ちの真剣な様子は、一人ひとり
が学びをきちんと受け止め表現
する姿であり、心強い気持ちに
なりました。

- 協力ありがとうございました
賛助費(以下敬称略)
横井直子 土居松枝
大村直子 川村悦子
梅林宏道 茂木玲子
上原睦子 土屋幸子
中島潤子 岩崎俊夫
萩原正 阿部方子
古銭ミネ 江尻礼子
佐藤待子 鈴木栄
桃井明男 古藤春世
大塚シゲ 小池久子
水野雅子 山口敏江
仁科恭生 田口美穂
鈴木恭子 寺山朝子
神津房子 阿部有三
太田和子 定田京子
田沼祥子 比企敦子
須藤和子 須藤悦子
鎌原恵子 伊藤悦子
毛利亮子 関口静子
原田早苗 山本将子
青木基子 奥田道子
小貫ツマ 永山峰子
赤木弘子 秋枝薫子
早田紀子 石井寛治
深田光代 三宅泰子
磯貝聡子 石川和子
遠藤洋子 荒川明子
渡辺瞳子 堀江宣子
川尻幸子 村松幸子
和田崇子 宮原栄子
岡崎敏雄 一杉静子
服部友子 長塩滋子
渡辺 峯 小泉迪子
湊 晶子 山田純子
井出 都 山藤和子
中村秀雄 牛尾保子
牛島栄子 鶴崎祥子
石川紀子 渡辺道子
古西正子 渡辺園子
藤田純子 岩田陽子
小川和子 山本康子
白井裕子 阿部幸子
松本よき 池上幸子
荒川知子 西野和子
藤野尚子 原美根子
廣田容子 青木恵子
中山ふみ 大島和美
平和教育資金
藤野尚子 俵 恭子
大川孝子 日本キリスト教協議会
オリブの木募金
井上昭弘 牧野和子
鶴崎祥子 貝塚好子
佐竹 順 米津豊彦
遠藤真理 小泉迪子
大沢美佳 松本彰雄
古谷久美 沖縄YWCA
国際協力募金「ガザの女性と子ども
支援」
平野恵子 俵 恭子
札幌YWCA 大阪YWCA
東京YWCA 名古屋YWCA
パレスチナYWCA支援募金
小泉迪子 柴沼喜久子
日本キリスト教協議会
一般寄付
日韓ユースカンファレンス
日韓ユースカンファレンス
木村真理子
(2009年8月20日現在)